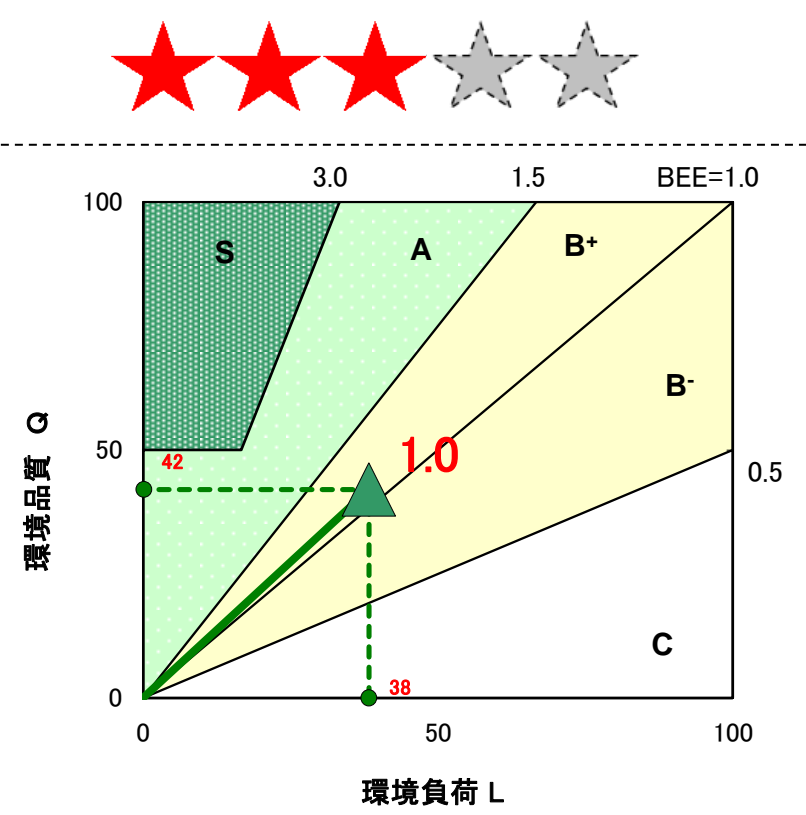


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	塗装工場 第10棟 新築工事	階数	地上1階		
建設地	熊本県玉名郡長洲町大字有明1-2,1	構造	S造		
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	0 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年12月 予定	評価の実施日	2015年4月20日		
敷地面積	1,061,819 m ²	作成者	暮部 義住		
建築面積	0 m ²	確認日	2015年4月20日		
延床面積	2,629 m ²	確認者	暮部 義住		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

排出率

#DIV/0!

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		76
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	87.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	56.6
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	75.0

■ 熊本県重点評価基準

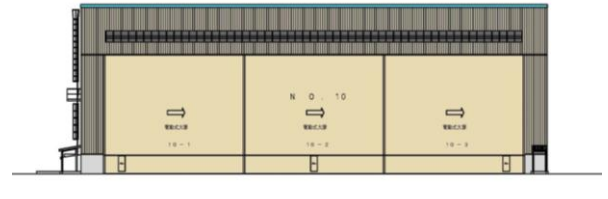
判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	塗装工場 第10棟 新築工事	階数	地上1階
建設地	熊本県玉名郡長洲町大字有明1-2	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年12月 予定	評価の実施日	2015年4月20日
敷地面積	1,061,819 m ²	作成者	暮部 義住
建築面積	0 m ²	確認日	2015年4月20日
延床面積	2,629 m ²	確認者	暮部 義住



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み #DIV/0!
③上記+②以外の #DIV/0!
④上記+ #DIV/0!

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 76

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 87.5	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 56.6
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 75.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 75.0

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
塗装工場 第10棟 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.33	-	-	
2	給排水・衛生設備		-	-	-	-	
3	電気設備		3.0	0.33	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.33	-	-	
5	通信・情報設備		-	-	-	-	
3 対応性・更新性			3.7	0.50	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	天井高:14000	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	別紙参照	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.29	-	-	
2	給排水管の更新性		-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上げ材がない為	5.0	0.14	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.29	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.29	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.99 住宅(専有部) 0.83	-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	3.7
1 水資源保護			-	-	-	-	-
1.1 節水			-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			-	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.75	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減	F=355以上	2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生蜜粒度アスコン13mm 採用部位:基礎・地中梁外部側表層仕	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			5.0	0.25	-	-	5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		躯体錆止め塗装剤、建具仕上げ塗装剤、建具シール材、ガラスシー	5.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		大気汚染物質を全く発生しない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場を利便性を考慮して計画している。	5.0	0.50	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別して環境に考慮している。	4.0	0.50	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.50	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	1.00	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	-	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建築基準法上を考慮した計画をしました。

Q1 室内環境

作業室の環境向上に計画をいたしました。

Q2 サービス性能

階高のゆとり、空間があり対応性に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

植栽は、良好な景観形成を行いました。

LR1 エネルギー

省エネルギー法の基準を満たしている。

LR2 資源・マテリアル

部材の再利用を可能にする考慮しました。

LR3 敷地外環境

敷地外環境の周辺環境への配慮を行った計画にしました。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 塗装工場 第10棟 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	76	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	0.0	0.00			
LR1-3	設備システムの高効率化	0.0	0.00			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.50			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.50			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.6	0.20	11.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	1.00			
LR2-1.1	節水	0.0	0.00			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	0.0	0.00			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数